



空中から見た土壌貯蔵施設（大熊 2期 3工区）の様子
被覆工、暫定キャッピング等を施工中（2023年9月撮影）

● インタビュー ●

この場所で商売をしたいと思えるような 『絵』を見せなくては

「伊達屋」五代目店主 吉田 知成 さん

双葉町の再生工事を後押ししたガソリンスタンド「伊達屋」五代目店主 吉田知成さんにインタビュー。双葉町に戻り、ガソリンスタンドを再開するまでの経緯、故郷への思いをお聞きました。

燃料で困っている人たちがいる…しかし、埼玉に避難している父親は店をたたむという。「明治から続いてきた伊達屋を自分の代で閉めるのもじっくりこない。双葉に縁もなかった人たちが復興のために頑張ってくれているのに、地元の自分が頑張らないのはなんだか失礼な気がして。」考えた末、家族の理解を得て双葉町に戻り、ガソリンスタンドを再開した。

再開したばかりの頃は暇な日々が続いたが、2018年に工事が本格化すると、休むことができなくなるくらい多忙になった。大規模な工事が一段落して、売り上げがピーク時の1/3程度となった今、復旧が進んでいることを実感しているが、同時に、大きな課題も感じるようになってきた。「双葉・大熊は部分的な解除からまだ1年。まだ人が戻っていない。人が戻るためには、まずは生活インフラの整備が必要不可欠。環境整備ファーストだ。行政は環境整備をもっと前のめりにやってほしい。その上でこの場所で商売をしたいと思えるような『絵』を見せなくてはならない。」



「そのためには『浜通り』や『双葉郡』のような、より大きな区域で連携していくことが大事。」と吉田さん。

今年は、震災後はじめてのだるま市、そして、7/15には盆踊りも開催し、町ににぎわいが感じられる日もあった。「だるま市が、みんなで顔を合わせる機会をつくってくれた。県内外を問わず双葉に目を向けてくれる人たちと協力して、それらがたくさん生まれるように盛り上げていきたい。」

吉田さんは現在も単身赴任中。家族が住む東京へ帰るのは月2回程度とか。震災後に生まれたお子さんも10歳になり、自分の父親のことを理解できるようになってきた。

「最近では双葉町にある親戚の店も手伝ってみたい、なんてことも言うんですよ。」

双葉町の一部区域の避難指示が解除されてまだ1年。吉田知成さんの奮闘はこれからも続いていく。

● 知のネットワーク会合を8月31日に開催しました

今回で7回目となる減容化・再生利用と復興を考える知のネットワーク会合を、会場（福島市）とネット配信のハイブリッドで開催し、合計約150名の方にご参加いただきました。

第一部では、「除去土壌等の減容等技術実証事業」の成果を広く知っていただくことを目的として、令和4年度の取組の中から4事業者に発表いただき、減容、再生利用等の技術について幅広く議論が行われました。第二部では、4名の講演の後、知のネットワークでは初の試みとなる、今後の理解醸成についてパネルディスカッションを行いました。議論の中では、「認知度には上限があるため理解度も同時に上げていかなければならない。」（高村昇さん）「全国に情報共有をしていくことが重要。正しい科学データを提供するのみでは信頼は得られないので公平な運営をしていくことで信頼を獲得する事が重要である。」（鶴野充茂さん）「自分事として考えていただく事が大事である。」（崎田裕子さん）「多くの方が自分事として考えてもらえるようにコミュニケーションを工夫したい」（中野哲哉さん）等のコメントがありました。

詳細な内容については、ホームページにまとめております。右記QRコードからご覧ください。



● 土壌貯蔵施設で「測定体験」を始めました

JESCOでは、2023年7月より中間貯蔵施設見学会の一部のコースにおいて、空間線量率（ある場所の時間あたりの放射線量）の測定体験を始めました。

貯蔵が完了した土壌貯蔵施設の上部で実際に線量計で測定していただくことで、見学者の皆様それぞれの目で空間線量率の実態を確認していただくことができます。

参加いただいた方々からは「除去土壌などがどの程度汚染されているのか具体的なイメージがついていなかったが、実際の線量などから意外と安全だと感じられた」「実際に測定を体験することで現在の安全性を知ることができ、再生利用や最終処分などの理解につながった」など、好評をいただいております。



▶見学会での測定体験開催日は、下記の「情報センター見学のご案内」QRコードからご覧ください。沢山のお申込みをお待ちしております。

情報センターだより

▼見学者アンケート

- まずは県民への理解を進める事、多くの学生に見学の機会を提供する事
／福島県（福島市）60代
- もっと多くの地域の教育過程で、除去土壌の再生利用についても取り上げられるようになってほしいと思った
／東京都 20代
- 実証実験などをしっかり行い、“安心”が保証されないと難しいと思われる。
／福島県(南相馬市) 30代

▼情報センター見学のご案内

中間貯蔵工事情報センターは無料で見学できます。
(中間貯蔵施設の見学は事前の申込みが必要です。)
詳しくはホームページをご覧ください。



福島県双葉郡大熊町大字小入野字向畑 256

編集後記

- 今年の夏は暑かったですね。そんな中で飲む、大熊町産のイチゴを使ったサワーエール（ビールの1種）のさわやかな味は最高の贅沢。家族にも大好評でした！（中島）
- 今回の知のネットワーク会合では、初めて「理解醸成」がテーマになりました。ようやくスタート地点に立った気分です。（沼田）
- 暑い日が続きへばっています。まさか最高気温35℃の日にモンブランを食べる事になるとは・・・（小柳）